

他力 一 住職便り

第十六号（平成三十年十一月）

専徳寺住職 弘中満雄



【空想】

寝る前に、四歳の二女が絵本を持ってききました。

昔、人参と大根とゴボウが暮らしていました。泥んこ遊びをして、泥だらけになったので、三人はお風呂に入りました。

人参は、熱いお湯にじつくり浸かっていたので、お湯にのぼせて真っ赤に。大根は身体を洗ったので真っ白。ゴボウは手を抜いたので黒いまま。

それからというもの、ニンジンも赤、大根は白、ゴボウは黒なんですよ。おしまい。」

すると途中から聞いていた長女が、

「それ、ウソだよね？」

確かに理科のテストで、「人参は



なぜ赤いのか？」という問題に「お風呂にずっと浸かっていたから」、ではダメです。

昔話や物語は空想です。科学的な見方をすれば嘘（ウソ）かもしれません。しかし昔話や物語は科学の話ではありません。

人参、大根、ゴボウ…。食物である前に「いのち」です。その事を子どもでも分かるように描いています。大切に食べて元気で大きくなって欲しい。そんな親心をうかがいます。

【真実の物語】

お寺で阿弥陀様の物語を聴聞します。

昔、法蔵菩薩が五劫の思案の末、「あらゆる者を救う」という、「本願を誓われました。兆載永劫の末、阿弥陀仏になられました。

「それ、ウソだよね？」

今のわが娘なら言いかねません。

ウソでも科学でも空想でもなく、仏さまが語られた真実の物語です。「釈迦に説法」

の言葉通り、だまって聴聞します。

聴聞とは、お風呂に入るようなものです。水が熱せられ湯になり、温かい風呂ができません。私は裸になってお風呂に入ります。お風呂の熱が私の肌につり、温まります。

法蔵菩薩が本願を仕上げ、温かな功德の「南無阿弥陀仏」ができました。私は凡夫のままその身を浸らせるだけです。何もせぬまま、温められている私があります。

真実の心であった時、ウソ、誤魔化していたのは私の方と知らされます。人生の大切な問題を、無視して生きようとする私です。しかしこの度、わきおこる煩惱も苦惱も、私に代わり、「われにまかせよ」と、引き受けてくださっている仏さまに出会います。

【連想】

突然ですが、「桃太郎」と聞いて、何を連想しますか？



「きびだんご」、「鬼退治」。桃太郎の物語からいろんな連想が出ると思います。

「かぐや姫」でも、「竹」や「月」等、いろいろあるかと。どれも物語のキーポイントです。では「南無阿弥陀仏」という仏さまの名を聞いて、みなさん、何を連想しますか？

「やさしさ」、「浄土」、「祖先」、「…仏壇」。連想は十人十色です。そんな中、阿弥陀様の物語から、こんな連想も。

「「本願（他力本願）です。願うのではなく、願われていました。お誓い通り、この私をつねに喚び続け、寄り添ってくださる声の仏さまと一緒にです。」

みなさんの連想は何ですか？（おわり）

（専徳寺ホームページの法話「十一月上旬」より）